

2025.8

---

**川崎市史市制100周年記念版  
令和7年度ワークショップ<sup>®</sup>報告書**

---

# はじめに

---

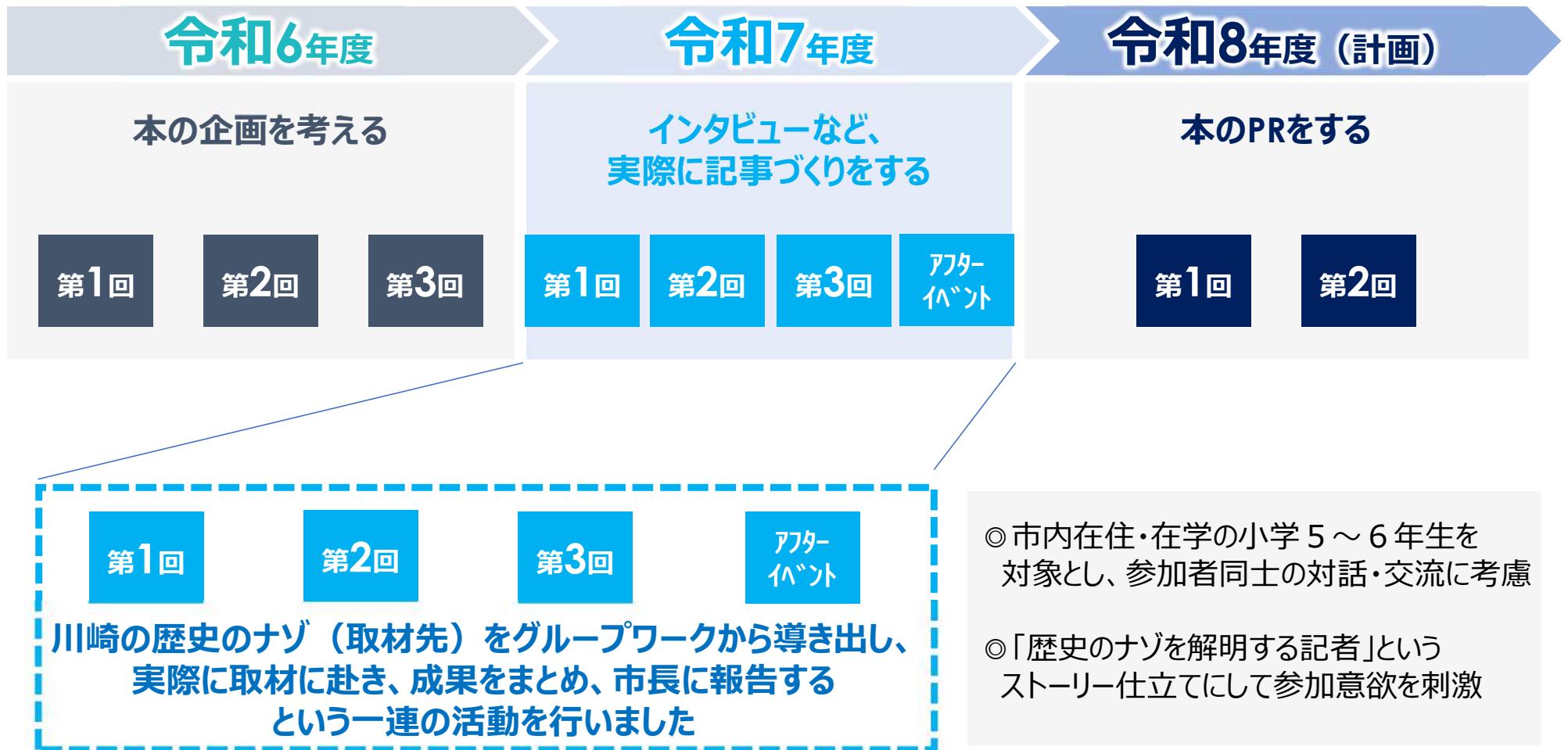
『川崎市史市制100周年記念版』は、  
川崎市を「知って、関わって、好きになってもらう」ことを目指して制作する、  
**新しいかたちの川崎市史（川崎の歴史の本）**です。

- ・親しみやすく、手に取りやすいものとする
- ・川崎市の歴史や文化を知ってもらい次世代につなげる
- ・市民に制作プロセスで関わってもらう

以上を目的として制作し、  
市民が積極的に本づくりに参加できる場として、ワークショップを開催します。

**令和7年度は、本に掲載する記事づくりを市民に体験してもらう場として、  
全3回のワークショップを実施しました。**

# ワークショップの構成



# 参加者募集

みんなで「川崎の歴史の本」をつくるプロジェクト

## ワークショップ

かわさきの歴史のナゾに挑戦!

小学校5・6年生のWS参加者募集中!

みんなが住んでいるまち、かわさき。  
じつは、いろんなところに  
歴史ミステリーがくかれているんだ!  
私たちは、そんなミステリーを調べて本にまとめようとしていて、  
調査隊員を募めいている!  
仲間と考えたり、昔のことをよく知っている人の話を聞きでかけたりして、  
いっしょに【川崎の歴史のナゾ】を解き明かしにいかないか? キミの挑戦を待っているぞ!

第1回 7/19(土) ナゾが発表されるぞ! 質問リストをつくろう

第2回 A 7/21(月) B 7/23(水) ナゾ解きいでかけるぞ! プロの記者やカメラマンも一緒にだよ

第3回 7/26(土) 調査結果を発表し合おう! 1枚の大きな絵\*にまとめるよ

アフターアイント 8/1(木) 調査結果を川崎市長に報告しよう!

\*1 市創100周年を記念して発行する新しい「川崎の歴史の本」のことです。  
ワークショップでの収集結果はこの本に掲載されます。  
\*2 完成した絵は縮小して、後日みんなにプレゼントします。

保護者の方へ

川崎市では、従来の学術的・専門的な「川崎市史」の編さん先行して、市創100周年を記念する市民参加による新しい「川崎の歴史の本」を、令和9年3月の発行に向けて制作しています。本の制作に当たっては、市民の皆様からワークショップやアンケートなどを通じていただいた御意見やアイデアを反映していきます。

問い合わせ先 川崎市公文書館  
川崎市公文書館 TEL 733-3933 FAX 733-2400 郵便番号 〒211-0051 川崎市中原区内4-1-1 電子メール 17koubun@city.kawasaki.jp

## 告知先

- ・小ポスター掲示（川崎市内の小学校の5年生・6年生の教室）
- ・大ポスター掲示（各区の区民センター、図書館、文化施設など）
- ・かわさきイベントアプリ
- ・川崎市公式HPと教育委員会HPのTOP画面での告知
- ・川崎市公式SNS



# 第1回 質問リストをつくろう！

2025年7月19日（土）10:00～12:00 会場：川崎市役所本庁舎復元棟（川崎区）

参加者：15名

第1回ワークショップでは、取材で使う質問リストをつくることが目標です。全16名の参加者は2グループに分かれ、まずは「解くことで取材先とテーマがわかるクイズ」に取り組みました。クイズの結果、A班は殿町小学校に舟が展示されているナゾを、B班は影向寺に「めめ」と書かれた絵馬が残されているナゾを取材することが分かりました。次に、取材先でどのような質問をすればいいか、自分たちでたくさんのアイデアを出し、整理し、グループ内で質問リストを作成しました。また、ライターによる取材のコツの解説や、フォトグラファーによる撮影の実践テクニックのレクチャーを受けました。



最初に、「歴史のナゾは何なのか」を導くためのクイズに取り組みました。小学5年生～6年生の参加者は早くも打ち解け、クイズに苦戦している仲間を応援する姿も見られました



取材でききたいことのアイデアを付せんに書きだし、分類して整理し、質問リストにまとめました



プロのフォトグラファーから習ったコツを実践して、上下さまざまにアングルを変えたり、アップ度を変えたりして、カメラ撮影の練習をおこないました

# 第2回 ナゾ解きにでかけるぞ！（A班）

2025年7月21日（月）10:00～12:00 会場：川崎市立殿町小学校（川崎区）

参加者：8名

A班は「どうして小学校に舟が展示されているのか」のナゾを解くため、殿町小学校を訪れ、石渡美由喜さんに取材しました。その結果、小学校内の資料室には、川崎でかつて営まれていた海苔漁の歴史を伝えるための資料がたくさん残されていることが分かりました。石渡さんは、ご自身が生まれ育った殿町での海苔づくりの風景を次世代の子供たちに伝えたいという想いから、小学校での海苔すき体験授業等の活動に長く携わっておられるという話も、詳しく聞くことができました。



郷土資料室で、石渡さんを囲んでインタビューを行いました。  
事前に考えてきた質問だけでなく、追加質問もたくさん  
出ました



石渡さんがお話しされている様子を  
カメラで撮影することにも挑戦しました



海苔資料室で、海苔漁や海苔づくりに  
実際に使われていた道具を見せていただき、  
記念撮影を行いました

# 第2回 ナゾ解きにでかけるぞ！（B班）

2025年7月23日（水）10:00～12:00 会場：影向寺（宮前区）

参加者：7名

B班は、「どうしてお寺に「めめ」と書かれた絵馬がたくさん残されているのか」のナゾを解くため、神奈川県最古のお寺である影向寺を訪れ、住職の加藤浩照さんに取材しました。その結果、「めめ」の絵馬は昔の人が「目の病気がよくなるように」と祈願するため影向寺に奉納されたものであることが分かりました。国指定重要文化財である「木造薬師如来両脇侍像」をはじめ、薬師堂や影向石、乳だしイチョウなど古くからの由来をもつ歴史資料を実際に見ることもできました。



寺務所にて加藤さんを囲み、インタビューを行いました。お寺の歴史や「影向寺」の名前の由来について教えていただき、住職としての役目や想いなどへも話題が広がりました



薬師堂で「めめ」絵馬の実物を見ることができました



くぼみの水は枯れることがないという伝承のある影向石を



境内の薬師堂の前で記念撮影を行いました

# 第3回 取材結果を発表し合おう！

2025年7月26日（土）10:00～12:00 会場：川崎産業振興会館（幸区）

参加者：15名

ワークショップ最終回では、A班・B班それぞれが取材結果をもちより、互いに発表しました。まず、班の中で「取材で分かったこと」「感じたことや思ったこと」を共有し、どうやって発表内容としてまとめるかを相談しました。次に、発表内容を参加者で分担して、班ごとで互いに発表しました。発表内容は長縄さんに班ごとの絵にまとめてもらい、「歴史のナゾ」と取材結果が分かりやすくまとめました。また、参加者が撮影したベストショットや、活動内容をまとめた映像が発表され、総括としました。



取材でわかった事実がかかった  
「情報断片カード」を並べ替えて、  
発表内容を考えました



班ごとに、取材結果を発表しました。  
相手の班の参加者からは、「へ～！」 「すごい！」  
など感想の声があがっていました



各班の発表内容は、長縄美紀さんが  
グラフィックコーディングで1枚の  
大きな絵にまとめました

# アフターイベント みんなで川崎市長へ報告しよう！

2025年8月1日（金）9:30～11:00 会場：川崎市役所本庁舎（川崎区）

参加者：14名

アフターイベントでは、取材結果について福田市長に報告しました。まずは班ごとに集まって、結果がまとめたグラフィックを見直しました。次に、参加者はそれぞれ、自分の「発表カード」で話す内容を復習した後、本番さながらのリハーサルも行いました。福田市長が入室すると、円座になって囲み、ひとりずつ、取材結果として「歴史のナゾについてわかったこと」を発表しました。福田市長からは、報告に対するコメントをいただいてから、歓談しました。最後には、全員で集合写真を撮影しました。



取材結果の振り返りと、発表内容の確認をしました



「歴史のナゾ」の解説結果を、一人ずつ発表しました



福田市長から、「川崎の歴史が世代を越えて皆さんに伝わったことはとても嬉しいことです」とのお話をいただきました

# 取材でわかったこと [A班] どうして小学校の教室に船があるのか

参加者	わかったこと
げんと	ふね班のナゾになってたふねは、ふなやさんにちゅうもんして、つくってもらっていました。「のり」がついているあみみたいなものがあるエリアには大きいふねは入れないから、資料室に置いてあった小さめのふねで、「のり」をとっていました。
りお	そのあたりの「のり」は、大師のりと呼ばれていて、お寿司やさんで使われていました。けれど今は「のり」は取れなくなって、大師のりは残っていません。
ちー	もっと詳しくすると、昭和46年代に、「のり」りょうは終わりました。川崎は、最初はのどかでしたが、工場が増えてきて、海が埋め立てられたりして、「のり」りょうは終わってしまいました。
コム	「のり」は一年に一度、寒いときにとれるものです。最初にとれる「のり」が一番おいしい11月の新「のり」です。「のり」はシーズンに何回かとれるんだけど、だんだん味が落ちていきます。とるときは、手がかじかんで大変です。手袋も使えませんでした。「のり」をつくるときは、すぐ技術が大切です。
ソウマ	多摩川の水と海の水がまざるところで、おいしい「のり」がとれます。大森にも「のり」があったけど、負けないくらいおいしい味です。いい「のり」は、あまくて、おいしく、焼くとみどり色になります。味付け「のり」は、焼くとむらさき色になり、安いものです。
Cookie	殿町小学校をたてかえるタイミングで4階にのり資料室ができたそうです。今まで40回も殿町小学校でのりすきの会をやってきました。のり資料室には、ふね以外でしゅうかくのための道具や、しゅうかくに行くときに着ていたはおりなどが置いてありました。博物館みたいな資料室でした。
とも	石渡さんは、殿町小学校の出身です。石渡さんは、50年くらい前に1年くらいかけて海苔の道具を集めました。先生と一緒にリアカーを引いて集めたそうで、4階の資料室にわざわざクレーンで道具を運び込んだりしたそうです。
はんな	石渡さんは、「のり」づくり体験をした、子どもたちが、まちであいさつしてくれるとうれしいと言っていました。また、手紙をもらうのも楽しみだと言っていました。私たちには、お弁当に入っている「のり」を見たら、むかし川崎で「のり」を作っていたことを思い出してほしいと言っていました。

⇒グラフィックレコーディングで集約

# グラフィック① A班の取材成果



# 取材でわかったこと [B班] どうしてお寺に「めめ」と書かれた板があるのか

参加者	わかったこと
さかうち	影向(ようごう)というのは、「仏さまがやどる」という意味だそうです。影に向かうというのは、西に向かっていくことで、西の方向にごくらくが、あるそうです。影向寺(ようごうじ)は、日本に2つしかない、めずらしい名前のお寺です。
りく	影向寺は、平安時代より前に、聖武天皇の奥さんが目の病気になったときに、聖武天皇が命令して、作られました。影向寺のごりやは、目の病気にきくことと、安心があることです。安心は、お寺でおいのりすることで病気がなおるだろうと安心する気持ちです。
みさき	どうして、絵馬に、2つの「め」があるのかを、住職さんに聞きました。住職さんは「人間の顔には2つ目があるでしょ。人間の目みたいだから。目にきくお寺だから、2つあると目みたいだから」と答えてくれました。
こう	影向寺にある「めめ」という文字が書いてある板は、じつは、むかしの絵馬です。おまいりに来た人が、目が良くなりますようにとねがって書いた絵馬だそうです。今はもうないけど、薬師堂(やくしどう)というお堂の中にかざってあり、いろいろな色があります。今書ける絵馬はよく見かける五角形の絵馬です。
まどか	住職の仕事は、お寺に住んで、お寺を守ることです。そこに生まれてきてしまったから、寺をつぐことはむかしから決まっていたそうです。子どものころは、学校の先生や旅行のてんじょう員も「いいな」と思ったりしたそうです。古くから伝わってきたお寺なので、歴史をつないでいくプレッシャーはあるそうで、次の世代につなげていくことが「大切」だと言っていました。
ゆうさく	影向寺には、影向石(ようごういし)という石があり、聖武天皇が影向寺を作れとめいれいして、影向石をきそにつかうため、だれかが運んできたとつたえられています。そのため、影向石には、はしらをさすためのくぼみがあり、そのくぼみに水がたまる知りました。今も、(水は)かわかないそうです。ほかにも、影向石は平安時代よりまえからげんだいまで、仏さまがとびのったということが言い伝えられており、その水を目につけると目がよくなるといわれているそうです。今はつけていないそうです。
こうき	影向寺には、ちちイチヨウというものがあり、根っこが木の途中に出ていて、牛の乳みたいだから、そういわれていました。おぐら池から出てきた、ひかる玉をおいかけてきたら、影向寺について、チチいちょうをみつけました。チチいちょうの乳のようなところを、くだけて飲んだら母乳が出るようになるといわれていたそうです。チチいちょうはとても大きな木なので、街道(かいどう)からも見えて、旅人のめじるしにも、なっていました。

⇒グラフィックレコーディングで集約

## グラフィック② B班の取材成果



# 参加者の感想 [取材ノートの感想欄から抜粋]

資料が、思っていたよりも貴重な物が多くて、すごく印象にのこりました。

たしかに、川崎は、文化がのこっていて、都会だけじゃなく、昔のものものこっていて、海苔も復活してほしいと思いました。

海苔は、長いあいだ、いろいろな手間をかけ完成させたとわかった。

聞きたいことが、他の人たちと同じだったりして(インタビューは)むずかしかった。

影向寺は神奈川で1番古い寺でびっくりした。像がいろんなところにたくさんいてかっこよかったです。また影向寺に来たいと思った。

いろいろなすごい物が見れて楽しかったです。  
どの物にも、するといいことや意味があってすごいと思いました。

加藤さんは、このお寺を守りたいということがすごく伝わってきた。  
「め」の意味もしっかり訳があって、なるほどと思った。

聖武天皇が、このお寺を建ててと命令していたことにおどろきました。  
1000年以上も続いているということに、おどろきました。

名前: 田中	記入欄
質問1: どうしてこの川崎市に多いお土産を始めたのですか?	
答えのメモ: うどん、せんべい、おにぎり	
質問2: なぜ川崎市に多いお土産があるのですか?	
答えのメモ: 川崎市は、古くから海苔の生産地として有名です。	
感想:	

名前: 永田	記入欄
質問1: どうして「め」なめですか? 「め」などのほかの字でも食べられますか?	
答えのメモ: うどん、せんべい、おにぎり	
質問2: おでりの先端のやらいをあしらえますか?	
答えのメモ: うどん、せんべい、おにぎり	
感想:	

# 記念撮影



アフターアイベントにて福田市長に取材成果を報告し、笑顔の参加者